

オンライン○○○

全日青副会長・秋田堯慶

新型コロナウイルス 師の立場で経験し
又の感染拡大を受
た。

「オンライン〇 〇」という言葉を目にするようになった。青年僧の会議でも早々にウェブ会議が導入され、当初は会話の時間差にとまどったが、回を重ねることで違和感がなくなった。3密を避けることは寺院も例外ではなく、無参拝オンライン法要を執り行った寺院や、YouTube、YouTube YouTuber、YouTuberを果だした僧侶もいるようだ。

かく言う私も、「オンライン葬儀」を導



秋田堯慶＝全日青副会長、青森県妙現寺副住職。昭和52年生まれ

県境を越える移動自粛が求められている最中のこと。父親との別れに子としては何としても参列したいが、母親や親戚を感染させるかもしれない。そこで本人と家族がお互いのためを考えてオンラインでの参列となった。時にはご遺族の手に持たれ、時には導師机に置かれたスマートフォン。その間はずっとテレビ電話で繋がったまま。仏さまと故人に意識を向けるべき葬儀で

コロナでの一時的なものとならないで

あるが、この時ばかりは電話口の本人にも想いが巡り、できる限り分かりやすい文言で回向、聞き取りやすい口調で法話を心がけた。

「離れていても、一緒にお題目を唱えられてよかった」と電話口からの感想。移動自粛が緩和され、初盆には帰省することもできるだろう。「お題目を唱えればいつでもお父さんとオンラインです。帰省できるまでお題目の祈りを続け、このたびの葬儀を納めた。」

出棺、火葬、通夜のすべてがオンラインだったことは賛否両論があるかもしれないが、「今できること」としてオンライン葬儀となった。これもビデオ通話と

いう便利なツールが普及したからなし得たのである。

ただ、「コロナウイルスが落ち着いた頃、「参拝することの大切さ」という本質がなおざりになってしまつのではないかと危惧する。業者や他宗派僧侶が「低価格でオンライン法要配信サービス」という名の事業を始め、たことをメディアで知った。本堂や墓への参拝は、寿量(じゅりょう)ご本仏、諸天善神、ご先祖さまへ、両親から戴いた身体で親孝行をすること。利便性を押し出したサービスで簡単に済ませてしまつのは、親孝行報恩行といえない。あくまでも一時しのぎの「オンライン葬儀」であることを忘れてはならないと強く感じた。